

池田東籬亭校正
葛飾戴斗畫圖

繪本通俗三國志 六編 全十冊

京攝書林

額田雙額堂

岡田羣玉堂

梓

序



明治十年交換

有人語曰。予幼在學。每之

中之書。精。里。只。難。通。信。之。國

信。門。信。之。及。名。者。孔。明

道。治。者。變。二。而。召。孫。孫。法。老。解

好。旁。而。為。義。予。信。然。如。為。此



飛之志。如俯世故。學句。語。其。誠。望。尊。親。解。孝。之。友。是。此。不。又。日。回。讀。其。書。及。及。其。孝。如。乃。孝。善。事。先。德。之。志。若。涉。江。河。一。無。疑。變。史。陳。高。唐。之。出。母。是。解。通。俗。之。聲。切。中。之。至。矣。時。源。武。

此言。以。為。孝。字。去。出。加。以。閱。者。此。欲。通。似。於。通。俗。而。便。產。蒙。費。及。孝。心。也。儻。買。其。冊。不。以。其。直。心。之。必。使。其。字。常。弄。之。左。右。又。庶。之。為。孝。字。天。係。存。字。秋。日。

又大口伊執勢守操京時善

聖谷孫時善



欠

MISSING

繪本通俗三國志六編總目錄

卷之壹

范疆張達殺張飛

蜀帝與兵伐吳

趙咨入魏說曹丕

關興張苞破吳兵

卷之二

蜀帝大戰猓亭

陸遜定計破蜀兵

蜀帝夜走白帝城

卷之三

魚腹浦八陣伏陸遜

白帝城蜀帝託孤

曹丕大與五路兵

卷之四

秦宓張溫大論天

曹丕沒龍舟伐吳

孔明與兵征南蠻

卷之五

孔明一擒孟獲

孔明二擒孟獲

孔明三擒孟獲

孔明四擒孟獲

卷之六

孔明五擒孟獲

孔明六擒孟獲

孔明七擒孟獲

卷之七

孔明秋夜祭瀘水

孔明初上出師表

趙雲大破魏兵

孔明智取三郡

卷之八

孔明計伏姜維

孔明祁山破曹真

孔明大破鉄車兵

卷之九

司馬仲達擒孟達

仲達討取街亭

孔明智退仲達

卷之十

孔明揮淚斬馬謖

陸遜石亭破曹休

孔明再上出師表

孔明二出祁山

總目錄終

みわんつうくきんぞうじんまきの
繪本通俗三國志六篇表之一

目録

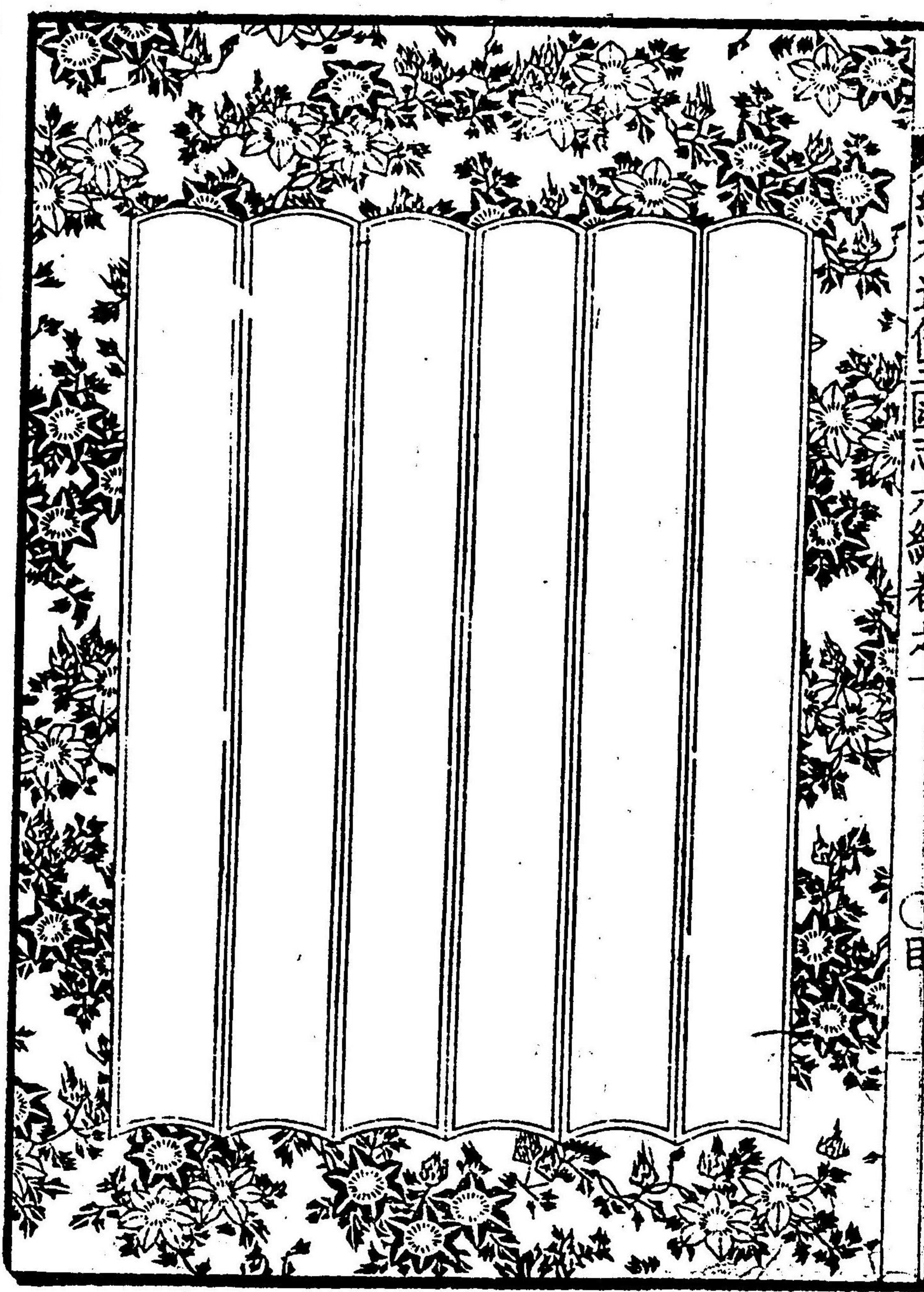
ちんりゅうちやうつちやういそころん
范疆張達殺張飛

しやくていひんたいしやく
蜀帝與兵伐吳

てうしやくいそく
趙咨入魏說曹丕

くわんちやうまやうりやうごういそやが
関與張苞破吳兵

繪本通俗三國志六篇表目録



繪本通俗三國志六編卷之壹

范疆張達殺張飛

漢中王とての皇帝の位に即ひ。次の日文武の百官朝廷し
 あつたりけり。帝詔を降し。宜く朕を討て。義を以て
 関羽張飛と生死の交を誓ふ。今関羽不幸なり。其の
 孫権を害せられり。是は天地を共にせざるの仇なり。朕は
 帝位に即ひ。汝が扶さる。若し関羽が仇を報せざるを
 是と昔日の盟を背く。朕は傾國の兵を起し。吳を滅ぼし
 逆賊を擒め。関羽が靈を祭る。其の恨をさぐんと思ふ。
 とたふ趙雲とて出て曰く。無用な。輕く吳を討べん。
 宜くま。魏を討て。魏を討て。吳を討て。魏を討て。吳を討て。

曹丕漢帝を執し神人とも怒る。陛下も「潛水の河上
 兵を屯し魏の逆賊を討つ。関東の忠あるものも
 糧と包み馬策打ぐ。王の師をむく。若魏を
 討つ。吳を討つ。兵勢一度交ぐ。あまよく解すること得へ
 んや。陛下もと察し帝宣ひけり。孫權朕が弟を殺
 て。殊に糜芳傅士仁潘璋馬忠を殺ぐ。吳の國あり。とあま
 甚と切るの仇あり。朕も肉を食ひ。その九族を滅さんとあ
 さま。汝もととと。趙雲又曰く。天下の重く。仇を報ぐ。家
 の輕し。陛下もと詳し。帝答て宣く。朕は関羽が讐
 と雪ぎ。八百里の江山をば。あま貴し。足んや。朕が意を
 決せり。汝再び諫るとあられと。即時に南蛮國へ勅使を

り。夷の勢五万余騎を借り。又関中へ勅使をさせ。張
 飛を車騎將軍領司隸校尉とし。西郷侯を封じ。関州の
 牧を善させらる。その時張飛の関中を守りて。関羽の
 為に殺され。由をき。日夜哀し。哭ひて。淚衣を濕し。目
 と怒らして。大に恨む。手下の諸將酒をためて。んと
 んと。張飛は醉と。怒の氣あ。盛んに士
 卒を痛く。鞭打ける。人死するものも多りけり。常は醉て
 南を望んで。齒を切り。怒り恨む。と。醒ると。た
 へ。色をた。大に哭き。哀れ。堪が。勅使あり。と
 報。け。張飛は。出む。久。報を。讀。と。統。を。紹。曰く

乃其天子と諫めんとて同朝きて奏して曰く古の初天子
 の子に坐せんとする堂に垂せざるとり入り陛下九五の位を受祖
 宗の統を傳へ徳を以て人を服さるるとか、今一時の
 怒よりて自ら大軍を起し山川の險阻を登り矢石を冒し
 のの宗廟を重んずるの仁ありとぞ。若し又関羽が義を尊
 ひ仇を復せんとなす一人の大將を命じて兵を統く
 伐ちの天子と交りてとてに御心を回され朕をらく兵を
 止て別の良計をあたさんと。宜しきも忽ち張飛きたりて奏
 せ。帝を召よせり人む張飛とてちの演武堂にまじりて地を
 拜伏し帝の御足を抱て大に哭く帝も張飛が背をおび。言
 せあるて泣く人む張飛が曰く陛下は天子とさるんぞ。早昔

の誓言を忘るる。関羽が仇をたむとて早く報りのむ。帝
 宣ひける百官をあらしめて諫む。その人輕く打起が
 たり。張飛が曰く他人の富貴を樂む。あまの昔日の
 盟を去らんや。陛下は打起のむ。臣一夫の身とて。関
 羽が為し仇を報つ。若報あるとあつらんを命じて。再び
 陛下を見ゆ。帝宣ひける朕もあらしめて汝と共に行人。張
 飛が曰く昔日の誓言をたむとて。自らも陛下下らざる人
 む。笑ひ耻しむられん。帝宣ひける汝のとき手下の勢を
 引て國中より出よ。朕大軍を起して。汝も出て合戦を滅
 しく恨をたむべし。張飛が曰く。臣安んぞ片時も恨らん。帝の
 なまひける朕もとより。汝が酒後怒を發し。亡女と士卒を鞭

打とてまゐる大なる禍の端あり。今より後よろしく慎み張飛
階を下て。謹んで拜謝し。又殿中へ回りける。次の日帝又兵を起
しひけし。學士秦宓とて出大を諫て曰く。陛下いま大軍を起
して。弟の仇を報じも。臣の仇もあはれ。不可あら。陛下万乘
の身をとめて。小なる義をなす。はんはまれ。古人の取ざるを。
殊に関羽の賢を軽ん。士を傲り。剛き。て自高りて。その禍を
ひき出せり。天の亡おさる。あらずや。願く。陛下よくおのこま。
帝宣ひける。関羽の朕と一体。ある。昔日の盟を忘る。んや。秦
宓又曰く。陛下諫をたぐひ。必き。大なる敗あらん。但惜
べ。新。創の入る。天下。卒に他人の物とあらん。帝大に怒りて
宣ひける。朕兵を起して。敵をむめ。汝の女は。ある。べ。不吉。乃

言と出せる。と。武士を命じて。首を討。やん。と。秦宓色
も変せず。笑て曰く。臣の死。と。恨。は。國中の民の塗炭。逢
と。と。と。あ。け。ん。と。及。く。幸。入。百。官。を。奏。し。て。曰。秦。宓
へ。良。臣。を。殺。す。は。一。命。を。助。け。り。帝。宣。ひ。け。り。暫。獄。中。に。捕
置。朕。が。仇。を。報。じ。て。回。り。首。を。刎。り。罪。を。正。す。ん。孔。明。を。れ。て。聞
て。又。表。を。上。り。諫。て。曰。く

臣亮亦切以吳賊逞鄭武之心。致荆及西復亡之禍。損將星
於牛斗。折天柱于楚地。此情哀痛。將興問罪之師。廊廟
同謀。悉起。究念之。義。皆。以。為。遷。漢。鼎。者。罪。由。曹。賊。隔
劉。祚。者。過。非。孫。權。蓋。謂。魏。賊。若。梟。除。則。吳。寇。自。然。質。服
願。陛。下。納。秦。宓。金。石。之。言。抑。下。注。刺。虎。之。勇。以。兼。士。卒。力

別作良圖則社稷幸甚天下幸甚

帝大に怒り表と地をあげらるゝて宜ひけるハ朕が意まで決せり。再び諫るるもハ劍とめて法と正さんとて卒に孔明と留太子と保て西川と守らるゝハ驃騎將軍馬超ハ弟馬岱と鎮北將軍魏延と助け共漢中と守りハ虎威將軍趙雲ハ後陣に下りて兵糧と送り運りハ黃權程畿と泰謀と馬良陳震と文書と掌らるゝハ黃忠と先鋒と。馮羽白張南と副將とし傅彤張翼と中軍護尉とし趙融廖淳と後備とし。その外宗徒の大將叔百人并五雜蛮夷ホの兵都合七十五万。章武元年七月上旬に成都と立ち進發もそのハ張飛ハ関中をせ回り手下の勢を尽し白旗とさせ各白袍とさせと吳

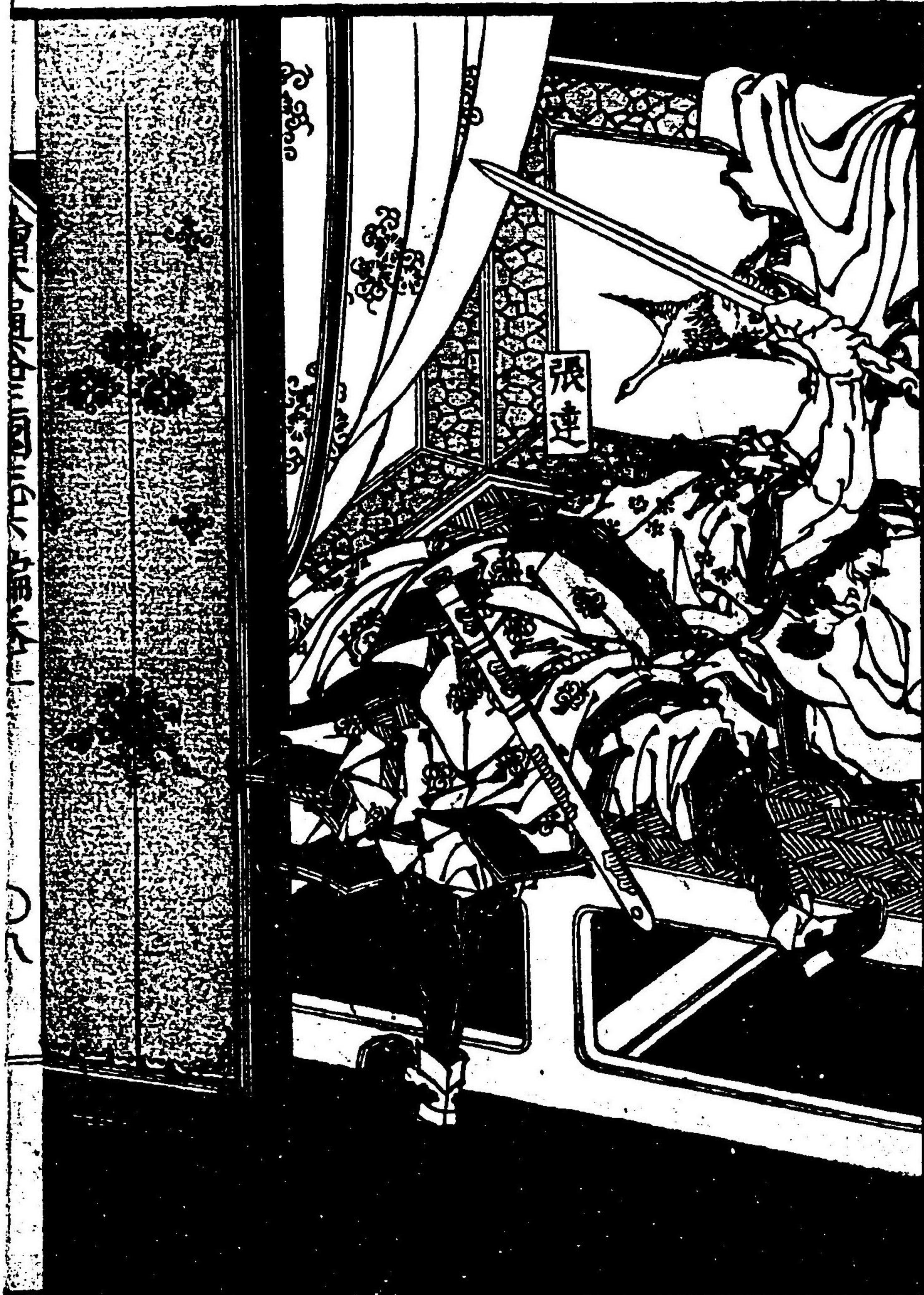
と平げ関羽が仇と報ずると己の白と定めて打起とさせ手下の大將范疆張達とらるゝの二人をこゝへ出てやけるハ只今仰と被る兵船武具白旗白袍の類ハ容易に調るとありがた。きつらく日限と延り人張飛怒て曰くハ兄の仇と報ずるも今日の内にも敵の堺に到ざると恨む汝いふ事なむ。命を背ぞとて武士を命じて二人を樹の上を縛付て背を四十杖打せ。若明日に足なく調むハ必き二人が首と刎とせよ。をりけむ。范疆張達深く怨む。そのハ船中を回りて議しける。今日浩る責を受とり人どもいふ。明日の内を調へん。元來その人性烈きと火のごとくある。明日調むハ。我を殺すと。殺すと。張達が白く。かゝる我と殺さるると。我

まの彼を殺さんと。范疆が白くいへて前より近付く張達
が白く運へた酒あり。范疆は運尺を彼を殺さんと。范疆は
何れも酒を酔く床の上より伏せ今夜も酒を
飲べし。范疆は運尺を彼を殺さんと。范疆は
夜張飛の神思昏乱して坐卧不安なり。范疆は
白くいへて今志きり。范疆は肉動く。范疆は
答て曰く。范疆は君の関公を殺さんと。范疆は
酒を飲んば人を酔く。范疆は張飛を殺さんと。范疆は
大喜びて懐に剣を藏へ。初更の比内に入り。范疆は軍の
大事ありと。范疆は直に床の前より到ると。范疆は張飛を殺さんと。范疆は
射の音雷のごとく。范疆は二人卒す。范疆は首を討落し。范疆は

十人を引て舟より呉の國へぞ走ける。張飛死すと。范疆は五
十五歳あり。軍中より范疆は兵を起して追蒐し。范疆は
及ぶと。范疆は手下の大将吳班。范疆は表を上りて
天子を奏し。長子張苞。范疆は棺槨を具せ。弟張紹。范疆は
守りし心

蜀帝興兵伐吳

章武元年七月丙寅の日帝十五方の勢を調へ吳を攻め
て已に成都を出る。孔明は山の百官を従へ十里送り。飯
けり。その夜帝は御心を肉動きけり。范疆は出て天子を
觀る。その西北の方より一山の星あり。大と斗のごとく。范疆は
は落けし。范疆は御心を疑ひ。范疆は人を走らしめて孔明を問ふ。



新編通鑑綱目卷之六十一

七

范疆張連
張飛と密に
謀る

范疆

張飛

張連

孔明奏して、二人の大將を失ふ。三日の内、驚あらず。と、
 帝は、（驚く）暫陣を張る。進む時、（張飛の）臣奏して、（張飛の）関中の張飛が、大將の吳班との、（張飛の）卓馬を、（張飛の）表せると告げ、（張飛の）帝あつて、（張飛の）驚き、手足措所を失ふ。噫、（張飛の）弟、（張飛の）變び、（張飛の）とて、（張飛の）表を披て、（張飛の）人を果して、（張飛の）張飛、（張飛の）酒を、（張飛の）と、（張飛の）痛く、（張飛の）寐入たる。范疆、張達、二人、（張飛の）首を討て、（張飛の）吳を降せりと書り、（張飛の）帝を、（張飛の）故に、（張飛の）哀を、（張飛の）哭き、（張飛の）遙望、（張飛の）と、（張飛の）愈々、（張飛の）祭りの、（張飛の）入次の日、（張飛の）一、（張飛の）軍馬、（張飛の）飛ぶ、（張飛の）と、（張飛の）馳来り、（張飛の）と、（張飛の）奏して、（張飛の）帝自ら出て、（張飛の）二人の大將、（張飛の）白を、（張飛の）と、（張飛の）著て、（張飛の）地の上、（張飛の）拜伏、（張飛の）と、（張飛の）謀、（張飛の）と、（張飛の）張飛、（張飛の）嫡子、（張飛の）張苞、（張飛の）あり、（張飛の）帝、（張飛の）大に、（張飛の）哭き、（張飛の）ひ、（張飛の）群臣、（張飛の）と、（張飛の）練、（張飛の）と、（張飛の）曰く、（張飛の）陛下、（張飛の）今、

大軍を起して、吳の國を討つと志す。ある、（張飛の）痛く、（張飛の）哭ひ、（張飛の）自ら、（張飛の）龍體を、（張飛の）損ひ、（張飛の）帝、（張飛の）張苞、（張飛の）む、（張飛の）宜ひ、（張飛の）呉班、（張飛の）と、（張飛の）先手、（張飛の）と、（張飛の）父の、（張飛の）仇を、（張飛の）報、（張飛の）と、（張飛の）張苞、（張飛の）曰く、（張飛の）父の、（張飛の）仇、（張飛の）と、（張飛の）死、（張飛の）と、（張飛の）と、（張飛の）帝、（張飛の）と、（張飛の）先手、（張飛の）と、（張飛の）近臣、（張飛の）又、（張飛の）奏して、（張飛の）曰く、（張飛の）一手の、（張飛の）軍馬、（張飛の）風、（張飛の）と、（張飛の）帝、（張飛の）と、（張飛の）関羽、（張飛の）が、（張飛の）父、（張飛の）男、（張飛の）関興、（張飛の）と、（張飛の）帝、（張飛の）と、（張飛の）九、（張飛の）早、（張飛の）三年、（張飛の）と、（張飛の）陛下、（張飛の）と、（張飛の）社、（張飛の）と、（張飛の）帝、（張飛の）と、（張飛の）ひ、（張飛の）昔、（張飛の）布衣、（張飛の）の中、（張飛の）関羽、（張飛の）張飛、（張飛の）と、（張飛の）帝、（張飛の）と、（張飛の）今、（張飛の）朕、（張飛の）天子、（張飛の）と、（張飛の）二人の、（張飛の）弟、（張飛の）と、（張飛の）不幸、（張飛の）と、（張飛の）早く、（張飛の）死、（張飛の）と、（張飛の）今、（張飛の）又、（張飛の）二人の、（張飛の）姪、（張飛の）と、（張飛の）鉄石、（張飛の）の、（張飛の）と、（張飛の）安、（張飛の）と、（張飛の）と、

らんとて吉と放りて長嘆一昏絶一人とね度み及び母
 とび百官も張苞関興も二將軍も退りて帝
 の龍体も艱かりし人とのみ二人退ひて出けし近臣奏
 して曰く陛下御年六旬也さて日夜憂るの恐ら
 く龍体も損もて帝宜ひける二人の弟も亡びて
 朕ひとり世ありしと昔日の約も背ありて頭をのりて地を
 たきま言とさめて哭きし百官も泣きて義しける
 今主上をもちて帝位も即りし自ら七十余万の大軍を
 まして遠く呉の國を伐りし殊も日夜哭き哀みのひく
 その兆不吉なりとて解もなき陳震が曰く成都
 の青城山も李意と入る。隱者あり。その人の漢の文帝の時

あり。その山も住む。今もこのまゝで三百余年上の天文も通下
 の地利を察しよく人の吉凶をきりて當世の神仙ありと聞
 り。早く天子も奏してその人をまねて試み今度の吉凶
 と問ふ百官もそのに従ひ李意がのりて奏しけし帝を
 ち。陳震も命とて入らせし陳震のまぎ成都も回
 り。案内者もたがひて深く青城山も入ける。清雲隱
 々として瑞氣尋常ありと忽ち一人の童子もきたり先
 生の陳震もあらしむと問はし陳震もいひて曰く童子
 のまればよく名もまじる。童子が曰く昨日が師のやせし
 明日もまじる男の天子も使ありて陳震もいひて金もたらし
 と入り陳震もいひてまじるまじるまじる真の神仙ありとて

廬の外に拜伏しけし李意ひて内に入りし陳震が白く天子いとき仙翁を見せんとしてほがひの望らくの駕を促して出多人李意が曰くも一年老く山を坐るとありて陳震が曰く仙翁出のむ其のくく空しく回らん李意已とて得る再三及で従ひん陳震の使をせそ趣を報きて帝のくく百官を引て五六里をり坐てむ之の李意が体てえり鶴髪童顔灼々と光を放ち身古栢のどくありけし宮中の精しく礼をせり李意が曰く老夫のまあり山中の賤人無学なりて職とありさ人の招きり帝宣ひける朕関羽張飛と生死の交むきん共我馬の河を奔まると三十年の

り。然るに朕が中山靖王の後あるなりて卒に推て帝位に即む。今二人の弟を害せられて讎とぐく呉の國あり。その人軍を起して呉を攻んとす。仙翁願ひ吉凶を決し人李意が曰くも天數あり。老夫がまありあらず。帝再三問たり。李意をあり紙筆をもちて兵馬武具の類四千余張を画き一く手にてしやどり。又一の大方あり人形を画き地の上は仰のけは卧たるをたからし。人土を掘り埋めんとする体と画し。上は一の白の字を書き拜し別して回りけし帝の内に喜ひのむ。され在人あり。あんで用るは足んとて火をのりて焼きてをたは張苞奏しく曰く。呉班が勢をまき来り臣孫

かたがた先手よとてまゝ帝の志を壯みありとて先鋒の印
を渡さしむとて一人又一人をこめて出て曰く先鋒の印は某に授
けり人彼仇を報ざるのんあまざる其の仇を報ざるのんあま
諸人よとてえねば関羽が次男関興あり地上は拜伏し涙
を流してやららるる臣が父をたすむ呉の爲に害せられし臣は
かたがた無用の身と捨て上は父兄の仇を報ぶ下は自己の恥
を雪ぐん祿をくち先鋒の印を授けり人張蒼をけるは父の
仇呉の困をわづきのもの人よとて已に先鋒の印を被むる関
興が曰く汝はさうする能ありやその職を受んとて張蒼が曰
く勿少なり武藝を學びて箭むあはれ發しとばし帝宣ひ
ける朕祿をくち二人の武藝をまつるも張蒼をあはれ三百

歩の外は二面の旗を立て旗の上は紅の験を付弓を取て三度
放つよとて験の中りけしとて將軍尽く敬馬嘆も関興も弓を
取て進出御邊が弓勢あんとて奇とて足んとてひけるわ
か心ち一行の雁雲の間をたがはれしとて我々の第三の雁を射
落さしんとて身と半月のどくろを交せ引詰て兵と放つよと
雁弦音は雁を落しけり文武の百官あ射つるやくと
感はけしとて張蒼は怒り馬を飛乘夫八の予を提げて汝
とてと戦を決せんやと呼りけしとて関興も馬を打乗刀をま
かしてけしとて汝はよく矛を使ひよとて又刀を使ひよとて
と交へんとてさるる帝叱りて無礼とてあはれをへり人
馬より下の地を伏せ帝宣ひける朕祿郡より汝二人を

と生死の交と結んで骨肉よりもあや親なり。今汝二人を
 あや昆仲の分あり。父が昔の義をよめい。吉凶のよ救い
 扶けて。その親情を背とあるれ。ぞ一言の念。同士軍を
 仕出して。その大義を失へる。父の喪のまじく遠くらざる。尚
 此のどく。相争ふ。況や他日や。汝二人の内。羊長ずる。兄を定む。
 張苞が白く。臣の閑興より。一歳長ずる。帝もあや閑興の命ト
 して。張苞を再拜せさせ。箭を折て。誓をまゝ。永く兄弟の約
 とあさ。ちのひ。吳班と。先鋒とり。朕が。汝二人。後陣
 と備ふ。よ。の。精兵三千余騎を授け。水陸二手に分て。
 その勢。潮の湧がどく。吳の國。心。の。よ

趙咨入魏說曹丕

范疆張達二人張飛が首と取て。吳を降り。事の様を告げ。孫
 孫権大に。どろき。文武の大將を。あ。め。け。る。今劉玄
 徳。と。帝位を登り。七十余万の精兵を率して。あ。の。あ。よ
 せ来る。その勢。泰山のどく。い。く。拒。ぐ。ま。き。魏人。を。色。を
 と。ま。ひ。互。ひ。面。を。合。せて。答。る。や。の。あ。り。け。れ。諸葛瑾
 が曰く。某。く。君の恩を受。ほ。ぐ。く。一命を棄て。蜀主。見
 へ。利害を説て。兩國を和睦せしめ。共。魏を伐て。天下を正さ
 し。孫権。志。と。喜。び。け。れ。諸葛瑾。卒。出。む。人
 と。元。章。武。元。年。秋。八。月。帝。大。軍。を。進。て。夔。関。の。こ。り。御。駕
 と。白。帝。城。を。止。て。先。手。の。勢。を。て。川。口。へ。出。こ。る。近。臣。奏
 して曰く。吳の國より。諸葛瑾使とり。帝大に怒。心。で。い。ま。進。る

へせと宣へば黄權諫めて曰く。諸葛瑾の孔明が兄あり。あま
の人は追回し入る。まの招き入して。その従へし。まの従
まの従へし。乃ち孫權が罪を責てまののの。か
帝をよまひ。呼入して對面し。人へ諸葛瑾地上を拜
伏し。帝宣ひける。汝をよまひ。心をもりの故あらん。諸葛
瑾が曰く。臣が弟。く陸下事。まのの。各鉞の誅を避
き。特よまひて。荆及びのりて奏す。近比関羽。荆及びを守り
の主人孫權。まの好む。まの。関羽
まの。従へし。却て呂蒙と不和。して。動をね。関羽
罵り。まの。主人孫權。怨を積の。其
後関羽襄陽を取。の。曹操まの。漢の天子の勅

命と号して。使て。主人孫權。荆及びを。取し。ま
れども。その詐あらん。と疑。孫權卒。従へし。呂
蒙び。兵を起して。主人まの。卒。荆及びを攻
取。主人孫權。呂蒙が関羽を殺したる由。後
悔。及。呂蒙が。主人孫
權の志る。今呂蒙。世を辞して。仇。七孫
夫人又。く。常。對面せ。望の。の
へ。主人。某。使。荆及びを。初の。返。降泰の者
を。取。献。孫夫人を。送り。長く。好む。者
び。共。曹丕を。伐。篡逆の罪を。正。未審。尊
意。帝怒。宣ひける。孫權。関羽を。言。

朕が股肱を廢す。今日又言を巧ましく。來說とす。諸葛瑾が曰く。臣が曰く。輕重大小を以て。漢の天子。さるる曹丕。陛下のむを。漢室の皇叔。漢の天子。さるる曹丕。裁まじし。陛下の仇を討て。篡逆の罪を正さ。公。関羽一人の爲。自ら大軍を起して。山川の難所を涉り。千里。雄を決し。大義を捨て。小義を就。中原。海内の地。洛陽長安。大漢業を創るの都。陛下の事を取と。おのを。荆及び。重て棄て。輕まを。取。天ト。陛下の位。即ゆ。二人の大將の爲。萬衆の御身を輕ん。計を失る。願

陛下の事を察し。帝よく怒て。宜ひけ。弟を殺せるの仇。天地日月と共みせむ。朕命令のあら。計。兵と退け。孔明が。思。今。汝が首。人。朕。吳の國を踏破りて。方分が。根。諸葛瑾の叶。震ひ。頭。去。吳の國。張昭。孫權。見。曰。諸葛瑾。蜀の大軍。和。使。直。孫權。曰。死。易の盟。孤。負。昔。諸葛瑾。孔明。江。渡。吳。來。孤。

諸葛瑾といふので。汝と孔明と骨肉を分る兄弟あり。
 するどきものも止むと。いひけしむ諸葛瑾答て孔明を
 又玄徳の事と義更に二心はし。ちりちりさつみ留らう。汝
 某が他に行むるがごとし入り。その一言神明を貫くは足り。
 今日争う蜀を降らん。と彼との交へ他人の言を以て。
 間へきもめらむ。その言をまじりて。諸葛瑾回りぬ。報
 つけしむ張昭と云へ。愧へ退生す。諸葛瑾内へ入らう。帝
 せども蜀帝和睦せむと。いひけしむ孫権大に怒り。色と
 失ふてつけらる。然ともへ國まき。危いと。二人とて生て
 曰く某の計めらむ。危きを救へ。諸人ともとて。んれを。
 中大夫趙咨あり。孫権問て曰く。汝いふもの計あり。趙咨が

曰く君いそぎ。魏の曹丕を表て上て救て求め。其の使と
 あり。許都に到り。利害を説て。曹丕漢中を襲ふ。んれ。
 志らう。魏の蜀の勢か。のり退らん。孫権よろき。曰く是
 計まらむ。善汝の一行。呉の國の威風を失ふ。とある。趙
 咨曰く。のり。威勢を落すと。めらむ。んれ。江中
 身を投へ。何の面目ありて生て回らん。孫権すある。表を
 作て臣と称。于禁を送回して。趙咨を使とらしむ。趙咨
 あり。魏の都に到り。大尉賈翊を見。そのひを語る。
 はぎの日賈翊朝きて。吳の國あり。中大夫趙咨といふ。表
 せしめて。使とりと報つけしむ。曹丕笑て曰く。蜀の勢か。乃
 よき。と。怖れて。援を求め。んれ。よび入て。對面し。表

と拔きてて曰く。汝が主人孫権の何ホの人ぞ。趙咨曰く。九人て曰く。乃ち聰明仁智雄畧の主なり。曹丕大笑ひけり。趙咨曰く。陛下下をさぐる笑ひの入り。曹丕曰く。朕汝が主人と賛する。と甚とさぎたるを笑ひ。趙咨曰く。陛下某が言のさぎたるをあらざると。聞のへん。曹丕曰く。汝が言はし理を合はぬ。朕その願を從之。趙咨曰く。魯肅と凡人の内より扱はる。と。その聰明なり。呂蒙と士平の列より抜たる。と。その明なり。于禁と獲て。善せざる。は。是其仁より。荆刃と取く。力と血と付ざる。は。されその智なり。三江と據て。天と虎視する。は。その雄なり。身と辱し。魏と急たがへ。その略なり。され。その論と。其の豈聰明

仁智雄畧の主をあらざる。曹丕曰く。孫権も学問の。趙咨曰く。主人兵船數万艘。江の浮べ。精兵を集る。と。百余万は。は。賢を任。下能と使。と。志氣経畧と存。と。は。職の。と。其の経傳と博覽。歴代の史籍と評。と。乃ち。手米奇異の人より。ある。章と尋。は。句と摘。の。謀生と交。へん。や。曹丕曰く。朕は。呉を伐んと。おの。と。如何ん。趙咨曰く。大國征伐の兵。ある。小國も。亦。守禦の備あり。伐の。人。と。も。ある。ん。ぞ。あ。と。曹丕曰く。呉人は。は。は。魏と畏。と。趙咨曰く。精兵百の。江漢と池。と。と。さ。る。の。人。魏と畏。と。さ。ぎ。曹丕曰く。呉の。困。と。汝が。と。さ。ぎ。の。程。ある。趙咨曰く。聰明特達。の。もの。八九十人。某が。と。さ。ぎ。の。車。と。載。斗。と。量。と。も。量。が。と。曹

不嘆曰。使于四方。不辱君命。可謂士大夫。汝當之。
使。趙咨。共吳。行。趙咨。恩。謝。退。生。一。使。劉曄。生。曹丕。諫。曰。今。孫權。蜀。之。寄。臣。愚。意。之。以。思。今。吳。蜀。之。戰。乃。天。之。滅。也。陛下。大。將。以。數。萬。之。勢。投。江。而。渡。之。事。也。襲。其。外。而。攻。魏。之。內。也。攻。吳。之。國。之。亡。也。十日。之內。生。之。吳。也。亡。之。也。蜀。也。存。也。願。陛下。之。察。之。曹丕。曰。孫權。之。禮。也。朕。之。服。也。朕。之。攻。也。信。也。天。之。失。也。況。也。初。也。帝。位。也。登。

志。之。計。也。用。是。劉曄。曰。孫權。英。雄。之。才。也。身。之。漢。也。封。之。侯。也。官。輕。也。勢。也。侯。之。職。也。官。輕。也。勢。也。魏。也。怕。之。也。今。王。位。也。進。也。陛下。也。階。也。萬。也。之。禮。也。冠。也。相。也。亂。也。今。陛下。也。之。使。也。信。也。王。位。也。封。也。九。錫。也。加。也。虎。也。翼。也。添。也。孫權。也。蜀。之。兵。也。退。也。外。也。陛下。也。順。也。禮。也。內。也。賊。也。漸。也。急。也。陛下。也。怒。也。兵。也。起。也。封。也。孫權。也。江南。之。民。也。解。也。禮。也。魏。也。事。也。臣。也。之。道。也。失。也。今。故。也。攻。也。來。也。心。也。江南。之。人民。也。擒。也。美。也。女。也。取。也。婢。也。金。也。銀。



と掠取ん為さると云ん。まゝと云ふ。呉の民は之を信ぢたりとて
力を尽して戦ひ。威風常より十倍せん。今陛下時々の
平げのまゝごんぐ。後々大なる悔あらん。曹丕が曰く。いやと。朕が
呉をも助けむ。蜀をもたさけむ。正統は居て安きこと泰山乃
どく。呉と蜀と力と尽しく戦ひ。は二國七ひ。一國へ大に疲ま
ん。朕その馬に乗てまゝとて。滅ぶさん事まをま決せり。汝もろく
謙むるにあられとて。卒にその謙を用ひざむ。劉曄慙愧
して退きけり。去程は魏の太常卿邢貞へ。趙咨と共に呉の
國より。いづれの人を遣し。勅使を兼ねのりて。まゝ来り。云
けむ。孫権は。いづれに遠出て。い入んと。顧雍謙めて曰。君をも
て。江東の國を保めて。ある他人の官爵と受り。いんや。孫権が

曰く。昔漢の高祖は項羽が封を受て。漢中の王とある。ま
時。因てのち。いづれと。耻と。と。百官を。引て。城を。出。送
と。い。え。け。る。邢貞。い。づ。れ。上。國。の。勅。使。を。り。て。あ。入。て。車。を。り
下。も。傍。若。無。人。と。る。体。を。て。入。け。む。張。昭。怒。り。て。前。に。進。こ
言。を。勵。ま。す。と。曰。く。汝。上。國。の。使。を。り。て。い。づ。れ。無。利
と。ま。さ。と。呉。の。國。は。智。勇。の。人。と。あ。り。と。あ。の。り。又。呉。の。國。は。劍。さ
し。と。あ。の。り。邢。貞。悔。れ。あ。り。と。も。驚。て。車。を。り。飛。下。け。む。勿。心
ち。一人。大。に。哭。き。と。い。ふ。身。を。捨。命。を。抛。ひ。と。あ。な。さ。と。
と。が。君。も。他人。の。官。爵。を。受。り。む。と。この。口。惜。と。よ。と。呼。ぶ。と。あ
や。の。あり。邢。貞。と。よ。と。聞。く。感。嘆。し。呉。の。其。の。忠。義。の
と。士。あり。と。く。一人。の。下。に。在。る。の。よ。め。い。づ。れ。と。い。ふ。哭。む。の

て難とて同づ。とある。偏將軍徐盛あり。孫權とて。魏の封爵を受けしむ。文武の諸將とて。く様賀す。孫權を
あらず。珠王犀角玳瑁翡翠孔雀鸚鵡鳴雛山雉の物と
あり。曹王もたてまつりて恩を謝しけしむ。張昭諫て曰
まの禮物をあたふ過たり。孫權笑て。人の心の慈は龜とあ
り。利をあたふ。結ぶ。今まの禮物をあたふ。石をあたふ。あま惜
む。足らぬ。ひけしむ。諸人尽く嘆伏す。

關興張苞破吳兵

このころ蜀の大軍白帝城に屯して。半月を待つ。入馬と息を
ける。ある。吳の孫權救の兵を魏に求めしむ。と。曹王あて
矢を發せしむ。た。吳王は封じたる。た。あつと告る。もの有

けしむ。帝大に喜び兵を下知して打起し。南蛮王沙
摩柯といふもの。夷の勢に力騎を引て。そ。来り。洞溪大將
杜路劉寧二人。二。の兵を引て。加りけしむ。水陸と。の。進
威風遠近を震動し。舟手の勢に。巫口まで。上陸地の勢に
殊。暇。よ。出。し。り。吳の孫權。王位。を。登。す。と。人。ども。魏の救。を。た
ら。ざ。り。と。文武。を。あ。つ。て。計。を。同。ふ。二人も言を。出。す。もの。あ。つ
し。長。嘆。し。て。や。け。し。む。周。瑜。魯。肅。呂。蒙。相。議。て。ま。る。を。扶
け。今。の。二人も。と。憂。を。共。み。す。もの。あ。つ。と。記。す。年。若。き。大
將。一人も。と。出。て。曰。く。主。上。兵。を。千。日。か。あ。つ。と。兼。ひ。し。一日の
用。を。備。へ。が。為。し。諸。將。士。各。を。い。と。び。口。を。閉。て。一。言。も。出。さ。ぬ
もの。と。し。し。る。道。理。で。臣。年。幼。少。と。し。せ。ど。も。常。に。兵。書。を。學。ぶ

力。孫がわたりて。叔方の勢を引いて。蜀の仇を退けし。臣が手下。季異
 謝。旌とて。方夫不當の大將二人あり。まゝらむ。玄徳を擒す。て
 困の災を除べ。謀人とのとて。えと。武衛都尉孫桓字の叔
 武と。た。羊二十五歳あり。孫権が曰く。姪。まて。こ。勇。あり。
 と。り。人。も。い。さ。せん。羊。を。あ。つ。て。少。し。必。ぎ。一。人。の。大。將。を。副。で。共
 む。力。を。助。け。し。ん。と。た。二。人。を。こ。し。出。て。曰。く。某。孫。が。く。孫。將。軍
 と。共。二。男。の。兵。を。退。治。せん。謀。人。ま。ま。と。え。と。丹。陽。故。彰。の。人。は
 虎。威。將。軍。朱。然。字。の。義。封。あり。孫。権。志。ろ。あ。へ。と。喜。び。水。陸
 の。勢。五。方。を。ま。け。孫。桓。を。左。都。督。に。封。す。朱。然。を。右。都。督。に
 封。す。蜀。の。勢。を。宜。都。ま。で。攻。入。と。り。と。告。げ。し。朱。然。先
 二。万。五。千。余。騎。を。率。し。宜。都。の。界。に。陣。を。取。三。手。に。分。れ。し。

敵を待たし。蜀の先陣。吳班大軍を引。て。真先。進。し。巴。の
 川。口。を。出。て。到。る。風。を。望。み。敗。降。し。又。血。を。塗。ま。し。て。
 宜。都。の。界。ま。で。攻。入。し。蜀。將。と。し。て。遠。近。震。ひ。始。と。け。り。
 と。た。吳。の。大。將。孫。桓。兵。を。引。て。打。出。し。り。と。報。し。け。し。吳。班。ま
 が。使。を。り。て。馮。習。張。南。を。告。す。の。由。を。帝。に。奏。せ。し。ま。の。と。た
 帝。の。御。駕。を。と。り。移。飯。ま。で。来。り。け。る。が。大。の。注。進。を。聞。て。大。怒。
 り。孫。桓。あ。ま。の。あ。ま。い。を。入。て。朕。が。軍。を。あ。と。ら。ん。と。い。は。る。朕。自
 ら。打。破。ら。ん。と。宣。へ。て。関。興。奏。し。て。曰。く。さ。ら。し。の。敵。の。臣。に
 命。と。り。討。し。や。し。帝。宣。ひ。け。る。汝。行。て。さ。の。敵。を。擒。め。し。ま
 たり。朕。汝。が。壯。氣。を。視。ん。関。興。拜。し。て。出。け。し。張。苞。奏。し
 て。曰。く。関。興。を。と。り。敵。を。む。し。入。臣。移。が。く。ち。行。て。助。ん。帝。宣。ひ

新編 皇朝通志 卷之三十三

けるは汝相助けんと願ふところ。神妙なるいそぎ打向て力あり
かせ必むるのやを輕んむるにありと張苞大に喜び関興と共に
先手よきと大軍。山を履り野を蔽ひ陣勢を張て鼓角乃
壹天地と動きて孫桓を以てて兵を引て討て出李異謝旌
を左右よきと自ら馬を旗の下よきとせしむ蜀の陣より
張苞矛をよきと関興刀を提げて馬を出し孫桓匹夫只今
切るべき頭をのめてあるもの天兵を拒んとするやと誓りけ
れば孫桓をあげてけり量よみか主の履を取席を織
たる小兒あり。汝が父のさや頭もあま鬼とあれりあるもの
よきとよきと命を失ふとよきと張苞怒り矛をまへて蕙りけ
れば孫桓を引て出んとする。後より謝旌馬をとせしむけ

出たれ程の敵よみと君と勞せしむる臣が生取やと人を
いへ。張苞と三十余合戦ひけるが卒に叶せしむ。逃回る
張苞まきし追ひまへる呉の陣より。李異又馬をりけし
大なる斧をまへし。又張苞と二十余合戦ひいよと勝負と
分ざるも呉の陣より。禪雄と入る大将を引て下と射る。
この矢乘たる馬の胸を射洞けしと。張苞地
上よきと落けるも。李異斧をのりて張苞を真甲をよきと二つ
破んとする。後より関興刀をまへしとせまり。李異か
首を討落して張苞をまへし回る。孫桓をよきと大に怒り
次の日兵を推し真先よきと出けしと。張苞関興馬を双に陣前
よきと孫桓刀を揮く馬をまへし人関興と三十余合たると。

いまだ勝負で分たざりけむ張蒼示てまつて突つくる。孫桓叶下とやあひけん馬を打ぐ走りけむ。関興張蒼追さどと追うけ蜀の先陣馮習張南も大軍を馳ぐ大まき心張蒼勇て振く真先もとける。呉の大將謝旌ま出ぬ。矛てまつて馬より下まき一殺さ。呉の勢いよく乱く。四角八方へ逃走りけむ。号の軍勢十分討勝て戦ひを収ける。関興一人と入ざり。一づ張蒼もをころま。弟は失ちあつらむ。命も存らざり。又馬を打乘二三里をのり出て尋るも。忽ち新興左の手を刀で提げ右の手を敵の大將と生取きたる。張蒼をねのぞと向べ関興笑ひて曰く。も志たつて進で戦ひけるも。昨日御辺が馬と射

り。呉の大將譚雄も出合追掛く生取きたる。張蒼もまろく喜び。ども本陣を回く。譚雄が首を刎血をまろりて死したる。馬の竟を祭り。表をのりて天子を奏して孫桓へ叔度の戦い打負たの切なる。三人の大將を討れ力尽勢ひ孤にして敵を拒ぐとあなぞと。早馬打ぐ孫権も救て来し蜀の先陣張南の馮習と議してやける。今呉の勢破とて氣を失ふ。どや大の時々のゆて大進敵の陣を踏破りて。病の根をぬき。尽と。馮習が曰孫桓叔日の戦ひも負てあちく將士を討たりと。又も舟三の大將朱然の江の畔に陣を取。今も深入して。孫桓が陣を攻べ朱然が舟手の勢を陸に上ぐて。も回る路を塞ぐ。張南が曰

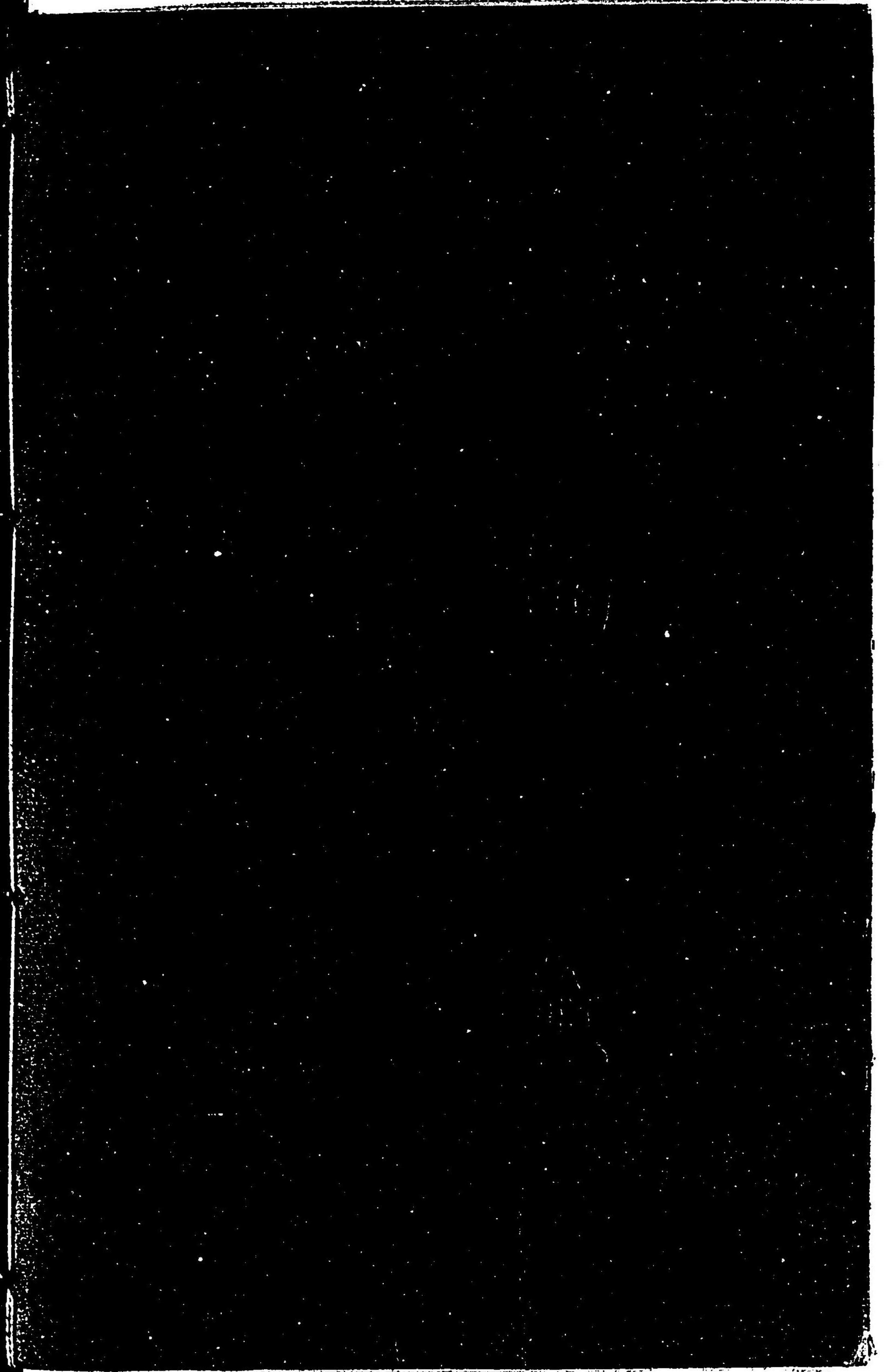
そのの極く易く関真張苞よそのく五千余騎を付ける谷の内
に伏せおちし若朱然が勢舟より上らば西方よりはしをきんを討しお
△吳班が曰くその計を好む人ども志し士卒を救りて朱然が
陣に澤泰させ今夜蜀の勢を破る孫桓が陣を夜討みせると告
させあが朱然は驚き火のあがりてとて来救へんと欲し伏兵
せめておちし討たせりしを調へん馮習張南よその計を
ひまが関真張苞と谷の内へ伏置士卒を命じて計を行じ
さるちども朱然が番兵蜀の士卒を生取舟を回とせよとのぞ
と向む士卒あえて曰くもしホの蜀の馮習が士卒あるが賞
罰の明うあらざるよよのて来降る願ふ一大事を告申とん
朱然が曰くいつするゆいぞ士卒告て曰く今夜蜀の勢は虚に乘

て孫桓が陣を夜討し火を付て焼んとせよ朱然の事を
信じてよくもあらせたりとて使を遣ひそのゆいと孫桓に
告知せしむるも関真中途に兵を伏せその使を斬棄たり
朱然の浩くともあらせりども已に孫桓に告知せしむる定めて用
心を盡し陸の上を蜀の兵の回る路を立塞んとしひひ
れの大將崔禹諫て曰く士卒の力と軽く信じては多き方
一郭の計あらば味方水陸ともに破るべし將軍がそのあつと
守り人某孫がくつと陸の上らん朱然げももとて一方の勢を
ひひく崔禹卒に打向きの夜馮習張南大軍と三手よ
そきて孫桓が陣をよせ四方より火をうけしむる吳の勢大に
乱れきんぐも逃走る崔禹の遙く火の起と望し路を急て救

んとさるるも。忽然として。谷の内は鼓の音。天地と崩し。左より
関真右より張苞。二手の勢討て生きたるを。攻けしむ。崔
禹されば。さうして。退くんとさるる。張苞馬と飛して。路
とまきり。只一合。生取と回りけしむ。その勢も。く討れ
けり。朱然の由とさるる。外の周章。舟手の勢。五六
十里退け。要害陣と張て。救の来ると待居り。孫桓陸の
陣と焼きて。残少。討とさるる。逃走の何より。足と止ん
と。向けしむ。軍士各て曰く。さうする。北夷陵の城。ハ。強の要害
あり。孫桓とさるる。夷陵の城。入りけしむ。蜀の大軍。喊と作る。
追うけ。四方と囲んで。息も継ぎ。城と攻り。関真張苞の
崔禹と生取と。斬り。軍の様と奏し。けしむ。帝大よ
喜び。崔禹が首とを。重く。諸軍と賞し。孫桓朱然。威風
いよく。振る。呉の将士。お膳と冷とさるる。孫桓朱然。志あり
み。救ととけしむ。孫権色と失ひ。文武の臣とあつて。いふ。せ
んと。評高と。張昭曰く。今。諸大将。おく。世と辞と。やせど
も。おび。十余人の大将あり。あつて。蜀の勢と。怖る。韓當大
將と。周泰と。副將と。瑯瑁と。先手と。凌統と。後備と。甘
寧と。諸方の救と。し。十カの勢と。起して。拒ぐ。あり。孫権大
み。従ひ。即時。諸將。觸ける。甘寧。あのと。病と。患と。久
ども。催。度と。及び。けしむ。已と。得と。打。起けり。

繪本通俗三國志六編卷之壹終

12
74
28



12
74
28

繪本通俗三國志

六編

一

繪本通俗三國志

129
74
28

東 京 圖 書 館

和書門

小說類

函

架

號

冊